



## ウェルビーイングな日々

no 15

■コロナウイルス感染症の拡大から6年経ち、今日まで、外交・経済・文化面などさまざまな面で影響が出たことが報じられてきました。その中で、「子どもたちの人と関わる力が弱くなったのではないか」という声も聞かれることがあります。

■そんな中、学校では、行事や活動内容の見直しなどを行いながら、子どもたちが毎日行きたくなる楽しい学校づくりを模索する取り組みが進められています。

■小・中学校の各学級では、学級のカラーが出た「係」が決められています。毎日交替する日直に始まり、定番の「給食係」「掲示係」「生き物係」など。子どもたちがアイデアを出して活動する「イラスト会社」「リサイクル会社」などのユニークな係もあります。

■面白い記事が新聞に載っていました。小学校の「お笑い係」や「エンタメ係」が紹介されていました。これは、クラスに笑いを届けることを役目とした係活動です。また、漫才を教育活動に取り入れた「漫才教育」も注目されています。子どもたちがコンビやトリオなどの組み合わせを決め、友達の前で漫才を披露するというものです。その際のルールは「きつい言葉を使わない、つつこみで相手をたたかない」です。また、教員経験のあるお笑い芸人さんが授業で講師役を引き受け、自分達の体験から『笑い』と『ふざけ』は違い、笑いには人を傷つける笑いとそうでない笑いがある、と伝えているそうです。

■子どもはよく笑います。しかも、人との関係作りで、笑いは大きな効果が期待できます。「良い笑い」には一体感を感じることができ、学級の雰囲気も自然と変わることでしょう。

■ちなみにこの芸人さんは、年100回ほどの出前授業を行っているそうです。こうした係活動や授業を通して、子どもたちが楽しい学校生活を送るためのきっかけが増えていくことを応援したいですね。いよいよ新学期がスタートします♥

